

精神科領域専門医研修プログラム

■ 専門研修プログラム名：島根大学医学部附属病院連携施設精神科専門医研修プログラム

■ プログラム担当者氏名：堀口 淳

住 所：〒 693 - 8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話番号：0853 - 20 - 2262

F A X：0853 - 20 - 2260

E-mail：jhorigu@med.shimane-u.ac.jp

■ 専攻医の募集人数：（ 8 ）人

■ 応募方法：

必要な応募書類を作成および準備して提出期限までに送付先へ送付する。

◆応募書類◆

1. 申請書（当院卒後臨床研修センターホームページよりダウンロードすること）
2. 履歴書
3. 医師免許証（コピー）
4. 臨床研修修了登録証（コピー）あるいは修了見込証明書
5. 健康診断書

◆送付先◆

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

島根大学医学部精神医学講座 医局長 長濱 道治 宛

TEL：0853-20-2262 FAX：0853-20-2260

◆その他◆

応募は提出期限までを原則とするが、やむを得ぬ事情がある場合には、下記に電話連絡すること。

連絡先：島根大学医学部精神医学講座 医局長 長濱道治（TEL：0853-20-2262）

■ 採用判定方法：

科長（教授）、副科長（准教授）、医局長が応募書類の記載内容と面接結果に基づき、採用の適否厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

島根大学医学部附属病院精神科・神経科は山陰地方の大学病院の一つとして、診療、教育、研究を実践している。診療では地方大学の強みを活かし、地域密着型の機能を担い、一方では特別外来として、

- ① 児童・思春期外来
- ② もの忘れ外来
- ③ 睡眠外来
- ④ 漢方心療外来
- ⑤ ストレス外来

を開設して専門医による高度な医療を行っている。

精神科・神経科病棟は 30 床で、一般病棟（開放病棟）、集中治療病棟（全室個室の閉鎖病棟）、隔離室は十分なスペースを確保し、児童から高齢者までの難治例や身体合併症例などの患者の治療やケアを精力的に実践している。チーム医療を重視し、医師、看護師、臨床心理士、精神科ソーシャルワーカー、薬剤師、作業療法士、理学療法士などとともに、症例検討会や簡易申し送り、教授回診などを通じて、十分な指導が受けられる。また大学関連の他施設や多職種とともに、入院患者の退院前には必ず「退院前カンファ」を患者や家族を交えて実施し、退院後の患者の生活設計やアフターケアを行っている。

専攻医はチーム医療の一員として、入院患者の主治医となり、指導医からの教育を受けながら、上述した他職種とチームを組み、各種の精神疾患に対する生物学的検査や心理検査などを行い、薬物療法や認知行動療法、精神療法、修正型電気けいれん療法などの治療を柔軟に組み合わせた最善の治療を学ぶ。専攻医はこれらの研修を通じて、ほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識や技術を修得することが可能である。

また、本研修プログラムは、島根県立こころの医療センター、島根県内の総ての精神科病院、島根県立中央病院、松江赤十字病院、松江市立病院、複数の精神科クリニックなどの主要精神科医療機関を連携施設としているので、専攻医はこれらの施設をローテ

ートしながら研鑽を積み、精神科医としての実力を向上させつつ、専門医を獲得することが可能である。

さらに本プログラムでは、基幹病院である島根大学病院で、児童思春期精神医療を特別外来だけでなく、院内の小児科医とともに組織している「子どものこころ診療部」でも小児科医や臨床心理士などから指導を受けることができる。

また、睡眠医療、認知症を中心とした老年期精神医療、漢方心療外来などでの漢方薬の使い方や、修正型電気けいれん療法、昨年まで高度先進医療であった光トポグラフィを用いた「うつ病の診断」や脳血流測定による脳機能の評価を用いた診断、3名の臨床心理士との協力診療やカンファランスなどに参加して、患者の心理学的理解や心理カウンセリングを学ぶことも可能である。さらに専攻医は希望に応じて精神科クリニックでの研修や認知症などのデイケアでの研修も可能であり、精神医療の知識や技術を幅広く習得することができる。

精神医学は、極めて幅広い領域を包含しており、そこには生物学的、心理学的、社会的な次元に加えて、実存的・哲学的問題も関与している。複雑を極める精神現象を理解して、治療するためには、乳幼児から児童・思春期、壮年期、老年期に至る人間のライフステージに応じた治療技術が求められる。そのためには、脳科学、分子遺伝学、精神病理学、心理学、社会学など多岐に亘る領域の理解が必要である。

専攻医は、基幹病院である島根大学医学部附属病院精神科神経科および、同・精神医学講座において、

- ① スタッフや臨床教授などによる精神分析の概念と基礎理論を学び、日常の精神療法への活用を目指した勉強会として「精神分析的精神療法研究会」
- ② 最新の英文の抄読と解説をする「EBM(Evidence-Based Medicine)研究会」
- ③ 精神疾患の病態解明のための実験動物を用いた研究会である「基礎医学研究会」
- ④ 光トポグラフィを用いた脳血流測定による主に抗認知症薬や抗うつ薬の効果研究と作用機序の解明およびうつ病の診断応用の研究を通じた臨床研究会
- ⑤ インドネシアのハッサヌディン大学からの外国人留学生（大学院生）の教育とストレスマーカー（唾液アミラーゼ）の大学間国際共同研究のためのスカイプを用いた国際ライブカンファランス
- ⑥ 精神疾患をテーマとした映画鑑賞とその解説（シネマサイカイアトリー）による教育
- ⑦ 日本精神神経学会が作成した教科書である「専門医を目指すヒトの精神医学」を用いた専攻医と教授による「早朝勉強会」
- ⑧ 生活臨床セミナー
- ⑨ 院内全科のスタッフに向けた「精神科 30 分勉強会」
- ⑩ リエゾンスタッフによる回診と他科医師との合同カンファレンス

などに参加し、日常の診療技術の習得と精神疾患の病態解明の必要性を広く学ぶことが可能である。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

■ プログラム全体の指導医数：50人

■ 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	5985	898
F1	1827	242
F2	4751	1673
F3	5450	628
F4 F50	4226	269
F4 F7 F8 F9 F50	1446	164
F6	295	42
その他	490	100

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：島根大学医学部附属病院
- ・施設形態：国立大学法人、公的総合病院
- ・院長名：井川 幹夫
- ・プログラム統括責任者氏名：堀口 淳
- ・指導責任者氏名：堀口 淳
- ・指導医人数：（ 9 ）人
- ・精神科病床数：（ 30 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
----	-----------	-----------

F0	310	21
F1	28	3
F2	198	32
F3	312	29
F4 F50	403	24
F4 F7 F8 F9 F50	67	5
F6	10	4
その他	207	7

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

島根大学医学部附属病院精神科・神経科は山陰地方の大学病院の一つとして、診療、教育、研究を実践している。

◆特殊外来◆

診療では地方大学の強みを活かし、地域密着型の機能を担い、一方では特別外来として、下記の専門外来を開設して専門医 9 名（平成 29 年 3 月 23 日現在）による高度な医療を行っている。

- ① 児童・思春期外来
- ② もの忘れ外来
- ③ 睡眠外来
- ④ 漢方心療外来
- ⑤ ストレス外来

◆病棟タイプと病床数◆

精神科・神経科病棟は 30 床で、一般病棟（開放病棟）、集中治療病棟（全室個室の閉鎖病棟）、隔離室は十分なスペースを確保し、児童から高齢者までの難治例や身体合併症例などの患者の治療やケアを精力的に実践している。

◆専攻医研修◆

チーム医療を重視し、医師、看護師、臨床心理士、精神科ソーシャルワーカー、薬剤師、作業療法士、理学療法士などとともに、症例検討会や簡易申し送り、教授回診などを通じて、十分な指導が受けられる。また大学関連の他施設や多職種とともに、入院患

者の退院前には必ず「退院前カンファ」を患者や家族を交えて実施し、退院後の患者の生活設計やアフターケアを行っている。

専攻医はチーム医療の一員として、入院患者の主治医となり、指導医からの教育を受けながら、上述した他職種とチームを組み、各種の精神疾患に対する生物学的検査や心理検査などを行い、薬物療法や認知行動療法、精神療法、修正型電気けいれん療法などの治療を柔軟に組み合わせた最善の治療を学ぶ。専攻医はこれらの研修を通じて、ほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識や技術を修得することが可能である。

さらに島根大学病院では、児童思春期精神医療を特別外来だけでなく、院内の小児科医とともに組織している「子どものこころ診療部」でも小児科医や臨床心理士などから指導を受けることができる。

また、睡眠医療、認知症を中心とした老年期精神医療、漢方心療外来などでの漢方薬の使い方や、修正型電気けいれん療法、昨年まで高度先進医療であった光トポグラフィーを用いた「うつ病の診断」や脳血流測定による脳機能の評価を用いた診断、3名の臨床心理士との協力診療やカンファランスなどに参加して、患者の心理学的理解や心理カウンセリングを学ぶことも可能である。

精神医学は、極めて幅広い領域を包含しており、そこには生物学的、心理学的、社会的な次元に加えて、実存的・哲学的問題も関与している。複雑を極める精神現象を理解して、治療するためには、乳幼児から児童・思春期、壮年期、老年期に至る人間のライフステージに応じた治療技術が求められる。そのためには、脳科学、分子遺伝学、精神病理学、心理学、社会学など多岐に亘る領域の理解が必要である。

専攻医は、島根大学医学部附属病院精神科神経科および、同精神医学講座において、下記に記載する各種の勉強会、研究会、セミナーおよびカンファランスに参加して、日常の診療技術の習得と、精神疾患の病態解明の必要性を、広く学ぶことが可能である。

- ① スタッフや臨床教授などによる精神分析の概念と基礎理論を学び、日常の精神療法への活用を目指した勉強会として「精神分析的精神療法研究会」
- ② 最新の英文の抄読と解説をする「EBM(Evidence-Based Medicine)研究会
- ③ 精神疾患の病態解明のための実験動物を用いた研究会である「基礎医学研究会」
- ④ 光トポグラフィーを用いた脳血流測定による主に抗認知症薬や抗うつ薬の効果研究と作用機序の解明およびうつ病の診断応用の研究を通じた臨床研究会
- ⑤ インドネシアのハサヌディン大学からの外国人留学生（大学院生）教育およびストレスマーカー（唾液アミラーゼ）の大学間国際共同研究のためのスカイプを用いた国際ライブカンファランス
- ⑥ 精神障害をテーマとした映画の鑑賞とその解説（シネマサイカイアトリー）によ

る教育

- ⑦ 日本精神神経学会が作成した教科書である「専門医を目指すヒトの精神医学」を用いた専攻医と教授による「早朝勉強会」
- ⑧ 生活臨床セミナー
- ⑨ 院内全科のスタッフに向けた「精神科 30 分勉強会」
- ⑩ リエゾンスタッフによる回診と他科医師との合同カンファレンス

B 研修連携施設

- ① 施設名：医療法人青葉会 松江青葉病院

・施設形態：医療法人、民間精神科病院

・院長名：妹尾晴夫

・指導責任者氏名：妹尾晴夫

・指導医人数：（ 6 ）人

・精神科病床数：（ 300 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	40	28
F1	5	8
F2	211	234
F3	197	33
F4 F50	90	7
F4 F7 F8 F9 F50	55	18
F6	6	3
その他	43	58

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

松江青葉病院は島根県庁所在地松江市に立地する 300 床の単科精神科病院である。

一般精神科医療をはじめ、児童・思春期（島根県・松江市 子供の心の診療ネットワークに参加）から老年期（日本老年精神医学会専門医制度認定施設、日本認知症学会専門医制度教育施設）まで幅広く診療可能である。精神科専門医以外に日本老年精神医学会認定専門医、日本認知症学会専門医が取得できる。また島根県高次脳機能障害支援ネットワークに参加しており、外来診療、デイケア、入院医療を行っている。医療観察法の指定通院医療機関でもあり、医療観察法に接することも可能である。精神鑑定関係では、簡易鑑定、本鑑定、医療観察法鑑定、成年後見制度鑑定を行っており、各鑑定の陪席が可能である。

② 施設名：医療法人同仁会 こなんホスピタル

- ・施設形態：医療法人、民間精神科病院
- ・院長名：福田 賢司
- ・指導責任者氏名：福田 賢司
- ・指導医人数：1人
- ・精神科病床数：147床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	3003	112
F1	1037	59
F2	544	31
F3	475	27
F4 F50	142	8
F4 F7 F8 F9 F50	52	3
F6	104	6
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

こなんホスピタルは松江市西端、宍道町で宍道湖畔に立地し、主として松江市西部・雲南市北部・出雲市平田町・斐川町にまたがる診療圏を背景にしています。

湖畔に立地する当院は窓の外には日本一のシジミを産み出す宍道湖が広がっています。病室からは眼下に宍道湖が広がり、季節ごとに表情を変えて気持ちを和ませてくれます。文豪小泉八雲が愛でた美しい夕景、湖上に舞うシジミ漁の小船、冬には一変して荒れ狂う波と四季折々にさまざまな顔を見ることが出来ます。そうした自然とゆったりとした広さを持つ病棟は、患者さんの心を和ませ自然治癒力を促進しているようです。病院アメニティを考えて入院生活を快適に過ごして頂ける様にゆったりと広い廊下、多床室もプライバシーを多少なりとも守れるようにゆとりを持ってカーテンで仕切られる空間を確保しています。また、開かれた病院、地域とともにある病院を目指して老人保健施設を併設し、訪問看護ステーションを開設して地域に出かけて必要な支援と求められるニーズの把握に努めています。地域との交流の一環として老人病棟には毎月近くの幼稚園児が慰問に訪れ、そして春・秋の病院祭りには小学生の合唱・合奏や地域の舞踊教室の方の踊り、手品など広く協力を頂いています。そこには入院中の方だけでなく、その御家族、幼稚園児・小学生のご家族、近隣の老人ホーム・福祉施設のご利用者なども入って頂いて人との交流、人の輪を大事にという理念を実践しています。

こなんホスピタルの基本理念は①生命の尊重②強調と融和③プライバシーの尊重④明るく思いやりのある対応を掲げ、50床の精神一般病棟と、47床の認知症疾患治療病棟、50床の精神療養病棟を運営しています。精神一般病床では約20年前からアルコール依存症治療プログラムを持ち、県東部のアルコール医療の最前線の一端を担っています。研修を受けた医師が2人、経験豊富な看護師が10余名、PSW2名、臨床心理士1名が担当しています。入院治療ではアルコール・パスや離脱症状評価を導入し、断酒会・A.A.と連携して院内断酒会、A.A.メッセージを開催してもらっています。女性依存症者も増え、月に一度は女性だけの会も開催して好評を頂いています。地域断酒会に同行出席して退院後へのつなぎを図り、また山陰断酒学校にも出席して多くの体験発表を聞いてもらっています。

近年は入院のみならず、外来治療にも積極的に取り組みをし、早期治療を目指しているところです。精神科でも入院医療の短縮や社会復帰、就労支援などが求められる時代になり、精神デイケア・通所リハビリ・訪問看護の拡充、ピア・サポーターや地域生活支援センターとタイアップした退院促進事業への取り組みなど先進的活動を展開しています。また、統合失調症の軽症化、うつ病の社会的認知の拡大などにより精神病の入院が減少し、多くの精神科病院が認知症やその周辺症状（BPSD）を引き受けるように

なって来ました。当院にも地域のみでなく、近隣総合病院・クリニックからの期待が増え、合併症を持つ高齢者が増加して総合的診療力が涵養される場となっています。

診断確定を迅速にするため血液・尿検査など臨床検査の大部分を院内で、放射線技師により X 線 CT も即座に撮影しています。高齢者の利用が増えたことも有り、老人保健施設・老人訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所なども併設し、地域・病院・施設が相互に補完して人生の終幕を支えています。

現在の診療体制としては常勤医師 4 人（2 人は精神保健指定医・精神科専門医、1 人は精神科専門医、1 人は内科・リハビリ科）、非常勤医師 3 人（島根大学病院等から）が担当していて、ほかに鳥取大学から 2 人の当直パートの応援を頂いています。スタッフも十二分とは言えませんが、看護師・准看護師が計 51 名、介護福祉士 20 名、看護補助者 6 名、薬剤師 2 名、作業療法士 9 名、精神保健福祉士 3 名、社会福祉士 1 名、臨床心理士 1 名、検査技師等 5 名など総力でより良い医療を目指しています。

働く医師はそれぞれ個性豊に自由な気風の下で、自己の信念にのっとった治療を進めています。患者さんの心に近づく寄り添うあり方も様々で、多様なアプローチを学んでいただけると自負しています。2 人の PSW もフットワーク良く、地域との架け橋・連携を支えています。病棟では経験豊かな看護師が医師の補佐をしっかりと努め、患者さんの回復に大きな力を与えています。地域と連携し、うつ病・統合失調症・アルコール依存症から老年期認知症の診断・BPSD への取り組みと幅広く医療を提供しています。

③ 施設名：島根県立こころの医療センター

- ・施設形態：公的単科精神科病院
- ・院長名：小林 孝文
- ・指導責任者氏名：小林 孝文
- ・指導医人数：（ 5 ）人
- ・精神科病床数：（ 242 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	193	33
F1	29	13

F2	568	265
F3	343	75
F4 F50	551	37
F4 F7 F8 F9 F50	277	31
F6	15	4
その他	50	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、精神科救急・急性期治療（全般的な診療機能の向上）、児童思春期治療（専門的な領域の充実）、総合リハビリテーション機能（地域における精神保健医療福祉サービスとの連携）などを診療活動の核としながら、病院としての総合力を向上させるような体制整備に取り組んできた。当院は、次にあげるような特徴を持っており、当院での研修を通じて、精神科専門医として実践的な精神医療をおこなうための一般的な素養を身につけることが可能である。

精神科診療の臨床能力を、手厚い指導体制のもとで培うことができる。（日本精神神経学会専門医 6 名、日本精神神経学会指導医 5 名、精神保健指定医 8 名）

病床は、5 病棟 242 床で、閉鎖病棟 3（うち、1 つは精神科救急入院料算定）、開放病棟 2（うち、1 つは児童思春期病棟で児童・思春期精神科入院医療管理料算定）に分かれている。新規入院患者の 6 割は非自発的な入院（措置入院、医療保護入院など）であり、医療観察法の鑑定入院なども行っており、多彩な、また急性期から慢性期に至るまでの幅広い精神疾患への対応について研修することが可能である。

精神科救急を 24 時間体制で行っており、精神科救急・急性期治療の対象となる症例が、数多く学べる。

措置入院、応急入院、鑑定事例（医療観察法鑑定入院、刑事責任能力の鑑定）など、重篤な精神科疾患の症例が学べる。治療抵抗性統合失調症に対するクロザピン治療も行っている。各種検査、心理検査なども行いながら多職種協働で診断や治療にあたっており、入院中から地域移行を視野に入れた援助を行っている。精神保健指定医、日本精神神経学会専門医等の資格取得に必要な症例も数多く経験することができる。

医療観察法の指定通院医療機関であることから、司法精神医学の研修に必要な症例についても学ぶことができる。触法精神障害者の社会復帰の支援は、複合的支援が極めて

重要であり、当院では、保護観察所の社会復帰調整官などとの緊密な連携のもと、支援を行う実感を学ぶことができる。（平成 29 年度には指定入院医療機関として整備予定）

児童思春期の症例については、児童思春期病棟での入院治療をはじめとして、外来・入院と幅広く学ぶことができる。また、病院敷地内に小学校、中学校の分校も併設されており、医療と教育との連携の重要性を学ぶこともできる。対象疾患・病態は、不登校、適応障害、神経症性障害、感情障害、統合失調症性障害、発達障害などである。臨床心理との連携も密で、心理検査、心理療法などを含め、診断から治療まで協力して行える。平成 24 年度より、子どものこころの診療ネットワーク事業が始まり、多職種連携のもとで専門的な医療を地域で展開することの必要性についても学ぶことができる。

デイケア、精神科作業療法、訪問看護などを通じ、関係機関との円滑な連携を図りながら QOL の向上や社会復帰を支援するなど、多職種協働による精神科医療の重要性を経験することができる。

身体合併症を有する精神疾患患者の治療に関しては、島根県立中央病院から定期的な内科医師の派遣を受けており、また院内での検査や治療が困難な場合には、近隣の総合病院精神科及び関係各科とも密接な連携を行いながら治療にあたることができる。

当院では、学会や研修への参加、発表、論文作成を推奨しており、日常臨床を学びながら、自らの専門領域や関連領域の研鑽に努めることができる。

④ 施設名：医療法人同仁会 海星病院

- ・施設形態：医療法人、民間精神科病院
- ・院長名：西田 朗
- ・指導責任者氏名：河野 公範
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 166 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	66	46
F1	17	3
F2	276	161

F3	125	28
F4 F50	7	7
F4 F7 F8 F9 F50	69	11
F6	2	0
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

海星病院精神科は、出雲圏域唯一の民間単科精神科病院である。そのため慢性の難治かつ処遇困難な症例が多く、行政や福祉と密に連携をとり、多職種チームを構成して、退院支援や地域生活支援を積極的に行っている。一方で、輪番制での精神科救急にも参加しているため、精神科救急の臨床経験や、措置入院症例の経験も可能である。

⑤ 特定医療法人恵和会 石東病院

- ・施設形態：特定医療法人、民間精神科病院
- ・院長名：橘 久之
- ・指導責任者氏名：安田 英彰（副院長）
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 168 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	126	82
F1	27	17
F2	187	100
F3	174	26
F4 F50	88	6

F4 F7 F8 F9 F50	1	0
F6	3	1
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

石東病院は高齢化先進地域にあり老年精神医学関連の症例は多く勉強できます。併設の介護療養型医療施設、老人保健施設、精神科デイケアでの体験も可能です。

⑥ 施設名：社会医療法人清和会 西川病院

- ・施設形態： 社会医療法人、民間精神科病院

- ・院長名： 荒木 正人

- ・指導責任者氏名： 松本 貴久

- ・指導医人数：（ 4 ）人

- ・精神科病床数：（ 408 ）床

- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	367	177
F1	108	41
F2	444	298
F3	473	101
F4 F50	265	32
F4 F7 F8 F9 F50	21	49
F6	23	11
その他	160	16

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

島根県西部地区の地域中核病院として老年期から児童思春期まであらゆる年齢層の難治重症例からソフトな症例まで幅広い患者層に対応している。救急症例も数多く経験でき、医療観察法の鑑定入院および指定通院機関でもあって司法精神医学の経験も可能である。病棟の個室率は56%で、全国にさがけて個室開放病棟を立ち上げた。社会生活技能訓練（SST）にも先駆的に取り組み、SST認定講師である医師の指導の下、リーダーの経験ができる。

また、集団認知行動療法の手法を取り入れたアルコール依存症のリハビリテーションプログラムや気分障害の心理教育プログラムのリーダーの経験も可能である。気分障害のリワークプログラムも行っている。

多職種チーム医療についても精力的にとりくみ、包括的地域生活支援プログラム（ACT）に準じたチーム医療（NACT）や関連する福祉施設職員も含めた法人内全職員（時には外部機関の職員も含む）が参加可能な合同カンファレンスなどを行っている。H28年4月からは、相談部門、訪問部門、福祉部門（入所施設系、就労支援も含めた通所施設系）が利用者支援総合チームを、また精神科デイケアを拠点に個別的な就労支援プログラム（IPS）も立ち上げる予定である。

⑦ 施設名：社会医療法人正光会 松ヶ丘病院

- ・施設形態：社会医療法人、民間精神科病院
- ・院長名：坪内 健
- ・指導責任者氏名：坪内 健
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 215 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	322	118
F1	44	16
F2	218	144
F3	210	42
F4 F50	110	12

F4 F7 F8 F9 F50	138	16
F6	1	1
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

担当者：院長 坪内 健

連絡先：0856-22-8711（内線 270） 事務部長 豊田 政幸

教育に関する委員会：研修検討委員会

研修指導医：坪内 健（院長）

笠原 恭輔（診療部長）

外来患者数：100 名／日

特徴：島根県益田圏域唯一の精神科病院ですので、多彩な疾患、症例を経験することが可能です。身体合併症治療に加え、児童思春期外来も開設しておりますので、思春期症例を含む多様な精神疾患の入院治療の実践経験を積むことができます。また、認知症疾患医療センターも併設しておりますので、認知症の鑑別診断、治療マネジメントにおいても、実践的な経験を積むことが可能です。

⑧ 施設名：医療法人コスモ会 奥出雲コスモ病院

・施設形態：医療法人、民間精神科病院

・院長名：今岡健次

・指導責任者氏名：今岡大輔

・指導医人数：（ 1 ）人

・精神科病床数：（ 100 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	167	44
F1	60	9
F2	152	73

F3	174	14
F4 F50	143	7
F4 F7 F8 F9 F50	45	5
F6	9	0
その他	0	3

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

島根県雲南圏域(雲南市、奥出雲町、飯南町)で唯一の精神科病院ですので、多彩な症例を幅広く経験することが可能です。当院は中山間地域に立地し、地域に根ざした精神医療を提供すべく、地域精神医療に力を入れております。多彩な精神疾患の患者様、急速な高齢化とともに増加する認知症患者様の外来・入院治療を経験します。患者様の生活の場へ足を運ぶ訪問看護とともに、行政や福祉と連携しながら外来・入院から退院後の支援・医療を通して、地域に必要とされる精神医療を経験することが可能です。

⑨ 施設名：社会医療法人昌林会 安来第一病院

- ・施設形態：社会医療法人、民間総合病院

- ・院長名：杉原 勉

- ・指導責任者氏名：片山 征爾

- ・指導医人数：（ 5 ）人

- ・精神科病床数：（ 228 ）床

- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	357	163
F1	49	21
F2	405	175
F3	202	88

F4 F50	63	27
F4 F7 F8 F9 F50	6	14
F6	15	5
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当法人は医療の向上、社会福祉への貢献、公的な運営を評価されて平成 21 年 1 月に日赤、済生会に準じた公的医療機関に位置づけられた「社会医療法人」に認定されました。平成 22 年 1 月には、地域における住民の医療を確保することを目的として指定される地域医療拠点病院となりました。「安来保健医療福祉の街」を構築し、「安心して暮らせる地域社会の実現」を目指し、職員一同良質なサービスの提供に努めております。現在、応急入院指定病院の指定を受けています。

数年来、安来市の地域医療充実のため、精神科医、脳神経外科医、神経内科医、乳腺外科医等、常勤医の招へいに努め、現在、11 名の精神科医が常勤医として勤務しています。平成 16 年 4 月から臨床研修病院（協力型）として、研修医を受け入れてきました。他に教育研修指定病院として認定を受け、医療従事者の育成に努めています。

当院は、日本精神神経学会が認定する精神科専門医制度における研修施設であり、学会より認定された指導医も在籍しています。精神保健指定医等の資格取得のための支援を充実させており、経験豊富な常勤医が担当指導医として支援しています。指導医からだけでなく、他科の優れた医師からも気軽にアドバイスを受けることのできる職場環境です。

外来では、精神科専門外来として思春期、アルコール、うつ病、物忘れ、てんかん等の外来を行っており、それぞれ専門の医師が担当しています。

平成 27 年 10 月に島根県から指定を受けて認知症疾患医療センターを開設していました。今後の重要課題である認知症についての相談窓口として、様々な問い合わせに対応しています。

病棟は、許可病床数 386 床のうち、精神科 228 床（精神科急性期治療病棟 38 床、療養病棟 146 床、認知症治療病棟 44 床、）と一般科 158 床（一般科病棟 60 床、回復期リハ病棟 48 床、療養病棟 50 床）を整備しているので、患者様の病状にあった病棟での治療が可能です。また、診療には、日本精神科病院協会が認定する日精協認定看護師や 24 名の精神保健福祉士等、多職種間の連携により、治療効果を上げています。

従来から取り組んでいる脳血管疾患リハビリ、運動期リハビリの他に、今後は循環器内科医、呼吸器内科医等と協力し、心大血管リハビリ、呼吸器リハビリ、そしてがん患者リハビリにも取り組み、島根県がん情報提供促進病院として幅広いリハビリの提供に努めていきます。そして、心と体のトータルケアを実践するために、医の倫理と人権を

尊重した医療を心掛け、また、研修医、医学生、看護学生、作業療法、理学療法などの実習の場を提供して、当院の特徴のひとつである、「地域に根ざした医療」の現場を体験できることではないかと考えています。

また、「専門的知識を持つ」、「相手の気持ちを理解する」、「偏見を持たない」、「自らの健康を管理する」をモットーに地域の医療に貢献したいと考えています。

⑩ 施設名：松江市立病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：紀川 純三
- ・指導責任者氏名：大竹 徹
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 50 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	66	27
F1	122	20
F2	274	69
F3	441	63
F4 F50	229	31
F4 F7 F8 F9 F50	30	3
F6	15	4
その他	32	4

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

松江市立病院は全 470 床の地域に根ざした総合病院です。その中において精神科は公立総合病院の中では珍しく閉鎖病棟 50 床を有し、デイケアも併設しています。身体合併症を有した精神疾患は無論のこと、措置入院も受け入れており、重症の統合失調症や感情障害から神経症性障害やストレス関連障害に至るまで、広範囲の精神疾患について研修できます。地域との連携を図り、思春期から老年期までの幅広い年齢層を受け入れていきます。さらに総合病院の性質上多種多様な人が救急受診します。自殺企

図や薬物関連、幻覚妄想やパニック発作など精神科救急も豊富です。精神保健指定医および日本精神神経学会認定精神科専門医の資格をとる症例には事欠きません。さらに当院精神科では日本総合病院精神医学会専門医制度研修施設となっているため、日本総合病院精神医学会認定専門医（一般病院連携精神医学専門医）も取得可能です。

総合病院の一員として研修する過程で、身体疾患も視野に入れながら診断・治療を考えていく姿勢が自然と身につくのも特長です。病棟業務、外来業務、精神科救急を体系的に研修することになります。大病院とは異なり、他科医師・他職種のスタッフと顔の分る付き合いができる環境にあるのも魅力の一つでしょう。当院には緩和ケア病棟もあり、2017年には癌センターも開設予定となっています。幅広い観点で日々の臨床に向き合い、専門外の知識を得ることも可能です。総合病院特有の他科との連携（コンサルテーション・リエゾン精神医学）も修得し、さらに臨床能力を養うばかりではなく、上級医の指導の下に学会・論文発表を行なうことも目標としています。

⑩ 施設名：松江赤十字病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：秦 公平
- ・指導責任者氏名：室津 和男
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 45 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	165	19
F1	128	22
F2	319	50
F3	433	72
F4 F50	239	20
F4 F7 F8 F9 F50	55	8
F6	14	2
その他	75	12

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当科では診療所からの統合失調症・うつ病・ストレス性障害・認知症・アルコール依存症など多彩な精神障害に対する専門的診断や入院治療の受け入れ、他病院からの身体合併症入院治療の受け入れ、救急医療～入院治療の受け入れ等、「地域医療機関との連携」を大切にするとともに、院内においては他科入院中に生じる精神変調への治療援助（リエゾン精神医療）や緩和医療におけるメンタルケアを積極的に行い、院内外の多様な要請に対し「チーム医療による質の高い精神医療」を提供しています。

平成 24 年 6 月から新病棟に移転しましたが、自由で開放的な療養環境（開放病棟）とし、個室も 5 床用意しました。誰でも気軽に声をかけられるようにナースステーションはオープンカウンターとし、少しでも自然を感じ心と癒やされるようデイルームにテラスを併設し、紅白のハナミズキとともに四季折々の草花を観賞して頂くことができます。患者さんの回復する力を大切に、家族と協力しながら、患者・家族・医療者が三位一体となった入院治療を提供しています。

また、当院は研修指定病院であり、医学生・初期臨床研修医が当科にも数多く来られますが、学ぶ人の主体性を尊重しながら「心で感じ、自ら考え、行動し、共に自己成長できる」実習・研修を心がけています。

< 当科の研修特徴 >

- 1) 認知症・A1 依存症・統合失調症・うつ病等幅広い精神障害の治療経験ができます。
- 2) 外来・入院・E R・リエゾン・地域活動支援等多彩な診療場面の経験ができます。
- 3) 緩和医療にも積極的に関わっており、他科と連携した統合医療の経験ができます。
- 4) 専門治療として A 1 教育入院治療を行い、院内断酒会を開催しています。
- 5) チーム医療を大切にしており、スタッフ教育・コミュニケーション推進を目的に毎年精神科レクチャー（10 回）とワークショップを開催しています。

⑪ 施設名：島根県立中央病院

・施設形態：公的総合病院

・院長名：菊池 清

・指導責任者氏名：挾間 玄以

・指導医人数：（ 4 ）人

・精神科病床数：（ 40 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	190	28
F1	76	10
F2	298	41
F3	256	30
F4 F50	769	51
F4 F7 F8 F9 F50	41	1
F6	6	1
その他	70	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当科は、地域の中心医療機関である総合病院に属し、小学生から高齢者まで様々な患者が受診する。新患数は年間約 1300 名（うち入院中他科紹介が約 500 名）で、統合失調症、気分障害はもとより、認知症を始めとする器質性精神疾患、摂食障害、神経症性障害に至るまで多彩な症例を有する。

他科からの紹介患者は、コンサルテーション・リエゾン精神医学の側面を有しており、せん妄のコントロールや身体疾患罹患に伴う不安への介入などを他科医師などと連携を図りながら積極的に行っている。また当院が救命救急センターを有していることもあり、自殺企図後の精神医学的介入や精神疾患患者が身体合併症で入院した場合の精神症状コントロールも行っている。

上記のような特徴を有するため、当科で研修を行うことで幅広く精神科臨床を学ぶことが可能である。

⑫ 施設名：こころの診療所細田クリニック

・施設形態：民間診療所

・院長名：細田 眞司

・指導責任者氏名：細田 眞司

・指導医人数：（ 1 ）人 非常勤精神科指導医（ 1 ）人

・精神科病床数：（ 0 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	209	0
F1	72	0
F2	231	0
F3	635	0
F4 F50	388	0
F4 F7 F8 F9 F50	215	0
F6	58	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

患者（F0-9）の生活に密着した精神科診療を経験することができる。精神科外来診療所の親密な雰囲気での治療を経験する。指導医とのマンツーマンの指導により、精神科診断・見立て、治療方針の組み立て、精神療法の機微、薬物療法の考え方、様々な社会的な支援の利用、家族関係への関与、職場・学校などへのアプローチなどを習得することができる。産業メンタルヘルス、他科診療所との連携、教育現場での危機対応、高齢者施設での精神科対応、保健所との連携を学習、経験する。また、症例にそった文献、書籍を推薦し、熟読する時間を確保し、その内容について指導医とのディスカッションを行う。症例報告等を学会発表する。また、臨床研究のデザインの作り方、論文の書き方等について指導を受けることができる。

研修形態は、常勤、非常勤のいずれでも可能である。また、期間についても、研修全体のバランスを考慮して柔軟に対応が可能である。

⑬ 施設名：とみさわクリニック

・施設形態：民間診療所

・院長名：冨澤 治

・指導責任者氏名：冨澤 治

・指導医人数：（ 1 ）人

・精神科病床数：（ 0 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	2	0
F1	4	0
F2	26	0
F3	144	0
F4 F50	120	0
F4 F7 F8 F9 F50	33	0
F6	4	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

2004 年から 10 年間東京都新宿区で開業していた経験から摂食障害、発達障害、人格障害、不登校などの精神分析的心理療法に力を入れている。

日本芸術療法学会理事の経験を生かして芸術療法を用いた心理療法を行っている。

地域の医療を担う役割として特別養護老人ホームの配置医師を勤めている。

上記のような特徴を生かした臨床場面での研修を行う。

⑭ 施設名：医療法人同仁会あさひクリニック

・施設形態：医療法人、民間診療所

・院長名：糸賀 基

・指導責任者氏名：糸賀 基

・指導医人数：（ 1 ）人

・精神科病床数：（ 0 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	33	0
F1	8	0
F2	186	0
F3	266	0
F4 F50	354	0
F4 F7 F8 F9 F50	2	0
F6	7	0
その他	15	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

単科精神科病院のサテライトクリニックとして、外来部門の一部を独立させた形で開院しており、大規模精神科デイケア、精神科訪問看護も行っている。

他の精神科診療所と比べ、統合失調症圏の患者さんの割合が多いため、生活支援、就労支援を総合的に行うため、PSW を中心として関係諸機関との連携を密にとり、地域に根ざした医療を提供している。

⑮ 施設名：（医）エスポアール出雲クリニック

・施設形態：民間診療所

・院長名：高橋 幸男

・指導責任者氏名： 高橋 幸男

・指導医人数：（ 1 ）人

・精神科病床数：（ 0 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	369	0

F1	13	0
F2	214	0
F3	590	0
F4 F50	265	0
F4 F7 F8 F9 F50	339	0
F6	3	0
その他	45	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

精神科診療所として、認知症デイケア、統合失調症を中心とした精神科デイケア及び高次脳機能障がい者に特化したデイケア、介護部門では1ユニット（9名の利用者）のグループホームと1日15名までのデイサービス、ご家庭への訪問サービス、そして1日5名までの泊り利用が出来る小規模多機能型居宅介護施設を併設し、多機能型の支援を行っている。

毎月1回地域のコミセンに出かけて認知症の啓発活動を開催、また出雲の精神医療を考える会“ふあっと”として地域精神医療の進展のために医療・行政・その他の職種の人とのネットワークづくりを行っている。同様に2か月に1度の高次脳機能障がいデイケアを中心にパワーネットワーク会議も行っている。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門制度の研修手帳にしたがって知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。

1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念の病態理解、疾患概念の病態理解、3. 診断と治療計画、診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体 薬物・身体 薬物・身体 療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法など、心理社会的療法など、8. 精神科救急、9. リエゾン・コサ リエゾン・コサ ルテーション精神医学、10. 法と精神医学、法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13. 安全管理。

各年次ごとの到達目標は以下通りである。

到達目標

1年目：基幹病院で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン・精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。精神療法の習得を目指し認知行動療法、精神分析・精神力精神療法、生活臨床のいずれかのカンファレンスやセミナーに参加する。精神科症例検討会で受け持ち症例のプレゼンテーションを行う。また「EBM(Evidence-Based Medicine)研究会」院内研究会などの院内研究会で発表・討論する。

2年目：基幹病院で指導医の指導を受けつつ、自立して面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技術を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的精神療法の基本考え方と技法を学ぶ。技を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。ひきつづき精神療法の修練を行う。また児童・思春期症例や認知症、睡眠覚醒障害の患者の理解を深め、漢方薬を含めた治療技術の基礎を学ぶ。学会で発表・討論する。

3年目：連携病院（精神科病院や総合病院精神科、精神科クリニック）で指導医からの指導を受けながら、自立して診療できるようにする。連携病院はより幅広い選択肢の中から専攻医志向を考慮して選択する。うつ病やパーソナリティ障害の患者などに対する認知行動療法や力動的精神療法を上級者の指導下実践する。統合失調症や認知症などに対する心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。外部の学会や研究会などで積極的に症例発表などを行う。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）および「研修記録簿」（別紙）に従う。

3) 個別項目について

① 倫理性・社会性

基幹施設において他科の専攻医とともに研修会やコンサルテーションリエゾンミーティング、「子どものこころ診療部」などへの参加を通じて、身体科との連携やコミュニケーションを体験できる。かような研修から、医師としての責任感や社会性、倫理観などについても学ぶ機会が得られる。

② 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心が

ける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や学内誌などへの投稿を勧める。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 患者との信頼関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師のコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾンコンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシー獲得を目指す。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設において臨床研究、基礎研究に従事し、その成果を学会や論文として発表する。

⑤ 自己学習

症例の理解を深めるために、英語論文等の最新の医療情報を自ら収集して読解し、診断や治療に活かすなどの自己研鑽に努める。

4) ローテーションモデル

専攻医は1年目と2年目との2年間は、基幹病院で研修し、精神科医としての基本的な知識と技術、および社会性や倫理性を習得する。

1年目は主に指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン・精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶことが最も大切である。

2年目は指導医の指導を受けつつ、自立して面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技術を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的精神療法の基本考え方と技法を学ぶ。また神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。ひきつづき精神療法の修練を行う。また児童・思春期症例や認知症、睡眠覚醒障害の患者の理解を深め、漢方薬を含めた治療技術の基礎を学ぶ。

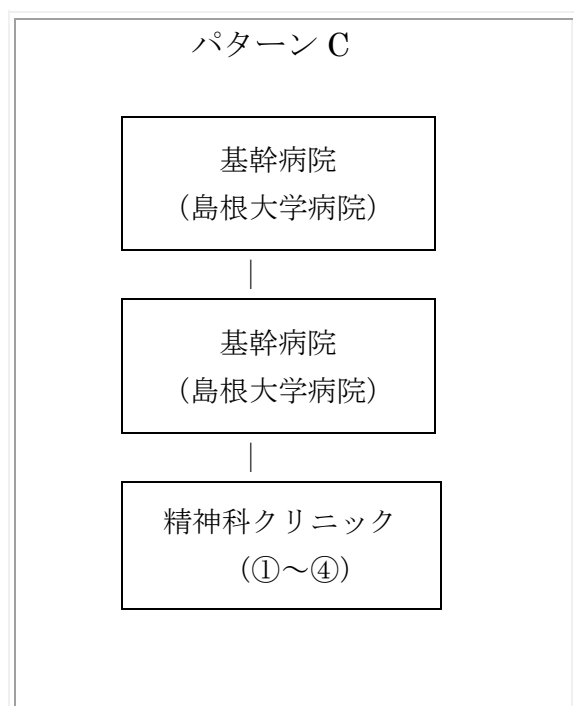
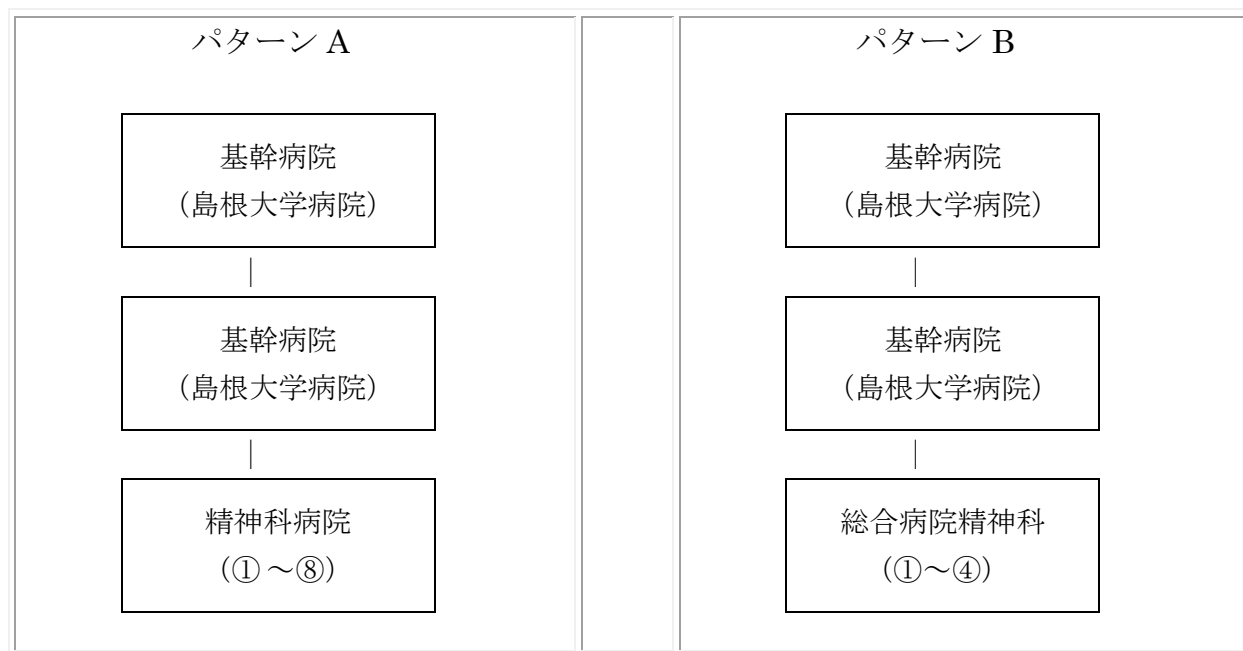
この2年間の期間に、専攻医は希望する精神科クリニックでの研修や認知症などのデイケアでの研修も可能であり、精神医療の知識や技術を幅広く習得する。

専攻医はその後の3年目をパターンA、パターンB、パターンCのどちらかを選択できる。

パターン A を選択した専攻医は、下記の①～⑦の精神科病院から、希望する病院を選択できる。専攻医は選択した精神科病院で地域精神医療活動や精神科デイケア、訪問診療、依存症治療、認知症デイケアなどに参画し、福祉職などの多職種とのチーム医療を学ぶ。

また、パターン B を選択した専攻医は、下記の①～④の総合病院精神科から、希望する病院を選択できる。専攻医は選択した総合病院精神科で、リエゾンコンサルテーション精神医療を通じて、身体合併症医療の技術を向上させることができる。また、選択した総合病院精神科と精神科クリニックおよび精神科病院との地域連携についても学ぶことができる。

パターン C を選択した専攻医は、下記の①～④の精神科クリニックから希望するクリニックを選択できる。これら 4 つのクリニックは各々が特徴的とも言える医療を展開しているので、有意義な研修が可能であると考えられる。すなわち、エスポアール出雲クリニックでは重度認知症デイケアと高次脳機能障害に特化したデイケアの活動の地域精神医療に於ける役割やチーム医療における医師の責任が研修できる。とみさわクリニックでは、精神分析的心理療法や芸術療法、あるいは摂食障害の心理療法が学べる。また細田クリニックでは、産業精神保健や学校精神保健などを通じて、地域の精神科関連との連携が研修できる。あさひクリニックでは精神科デイケアを通じて、デイケアスタッフとのチーム医療が研修可能である。



パターン A の精神科病院の①～⑧とは以下の病院である。

専攻医はこの①～⑧の精神科病院から、希望する病院を選択できる。

- ① 松江青葉病院
- ② こなんホスピタル
- ③ 島根県立こころの医療センター
- ④ 海星病院
- ⑤ 石東病院
- ⑥ 西川病院
- ⑦ 松ヶ丘病院
- ⑧ 奥出雲コスモ病院

パターン B および C の総合病院精神科の①～④とは以下の病院である。

専攻医はこの①～④の総合病院精神科から、希望する病院を選択できる。

- ① 安来第一病院
- ② 松江市立病院
- ③ 松江赤十字病院
- ④ 島根県立中央病院

パターン C の精神科クリニックの①～④とは以下の病院である。

専攻医はこの①～④の精神科クリニックから、希望する病院を選択できる。

- ① こころの診療所細田クリニック
- ② とみさわクリニック
- ③ あさひクリニック
- ④ エスポアール出雲クリニック

5) 研修の週間・年間計画

別紙2と別紙3を参照

4. プログラム管理体制について

1) プログラム管理委員会

- 委員長 医師：堀口 淳
- 医師：宮岡 剛
- 医師：橋岡 禎征
- 医師：林田 麻衣子
- 医師：長濱 道治
- 看護師：高田 佳世
- 精神保健福祉士：福田 明美
- 医師：妹尾 晴夫
- 医師：小林 孝文
- 医師：福田 賢司
- 医師：河野 公範
- 医師：橘 久之
- 医師：松本 貴久
- 医師：坪内 健
- 医師：今岡 大輔
- 医師：片山 征爾
- 医師：大竹 徹
- 医師：室津 和男
- 医師：挾間 玄以
- 医師：細田 眞司
- 医師：富澤 治
- 医師：糸賀 基
- 医師：高橋 幸男

2) プログラム統括責任者

堀口 淳

3) 連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

島根大学病院： 堀口 淳
松江青葉病院： 妹尾 晴夫
こなんホスピタル： 福田 賢司
島根県立こころの医療センター： 小林 孝文
海星病院： 河野 公範
石東病院： 橘 久之
西川病院： 松本 貴久
松ヶ丘病院： 坪内 健
奥出雲コスモ病院： 今岡 大輔
安来第一病院： 片山 征爾
松江市立病院： 大竹 徹
松江赤十字病院： 室津 和男
島根県立中央病院： 挾間 玄以
こころの診療所細田クリニック： 細田 眞司
とみさわクリニック： 富澤 治
あさひクリニック： 糸賀 基
エスポアール出雲クリニック： 高橋 幸男

2) 評価時期と評価方法

① パターン A

3 か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後研修方法を定めプログラム管理委員会に提出する。研修目標の達成度を、当該施設指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。1年後に1年間のプログラム進行状況並びに研修目標達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。その際専攻医研修実績および評価には記録簿／システムを用いる。

② パターン B

パターン A と同様に、3 か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後研修方法を定めプログラム管理委員会に提出する。研修目標の達成度を、当該施設指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。

1年後に1年間のプログラム進行状況並びに研修目標達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。その際専攻医研修実績および評価には記録簿／システムを用いる。

③ パターン C

パターン A、パターン B と同様に 3 か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後研修方法を定めプログラム管理委員会に提出する。研修目標の達成度を、当該施設指導責任者と専攻医がそれぞれ 6 ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。

1 年後に 1 年間のプログラム進行状況並びに研修目標達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。その際専攻医研修実績および評価には記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」に実績を記載し、指導医による形成的評価フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年 1 回行う。

島根大学病院にて専攻医の研修履歴（施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル
- 指導医マニュアル

◆専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価を行い記録する。少なくとも年に 1 回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形的自己評価行うこと。研修を了しようする年度末には総括的評価により評価が行われる。

◆指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価を行い、指導医も形成的評価を行い、記録する。少なくとも年 1 回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価を行い、評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックを行い記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

各施設の労務管理基準に準拠する。

2) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。

3) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設指導による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

4) F D の計画・実施

年 1 回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。

A) 週間スケジュール

① 島根大学病院

	月	火	水	木	金
8:30 ～ 9:00	病棟業務 外来業務 電気けいれん 療法	病棟業務	若手早朝勉強 会（「専門医を めざす人の精 神医学」） 電気けいれん 療法	病棟業務	電気けいれん 療法
9:00 ～ 12:00	病棟業務 児童思春期外 来	病棟業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務
12:00 ～ 13:00	休憩 薬剤説明会 医局会	休憩	休憩	休憩	休憩
13:00 ～ 16:00	患者申し送り 教授回診 チームカンフ ァレンス 医局セミナー	リエゾン回診	ストレス外来	漢方心療外来 （不定期）	もの忘れ外来
16:00 ～ 17:00	睡眠外来 インドネシア ハサスディン大学と の国際ライブカンフ ァレンス（月 1 回）	リエゾンミーテ ィング 病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
17:00 ～ 20:00	シネサイカ イアトリー （月 2 回）	EBM 研究会 （不定期）		精神分析的精 神療法研究会 基礎医学研究 会	生活臨床セミナ ー

※いずれの施設においても、就業時間が 40 時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。原則として、40 時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

② 松江青葉病院

曜日等	時間	事項
月曜日	AM 8:30	入院診療 外来診療
	PM 13:00	入院診療
火曜日	AM 8:30	入院診療
	PM 13:00	入退院紹介、カンファレンス 医局会 入院診療
水曜日	AM 8:30	入院診療 外来診療
	PM 13:00	講習会 入院診療
	PM 16:00	診療会議
木曜日	AM 8:30	入院診療
	PM 13:00	抄読会 入院診療
金曜日	AM 8:30	入院診療 外来診療
	PM 13:00	入院診療

③ こなんホスピタル

	月	火	水	木	金	土
第1週	病院オリエンテーション	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診
	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
	院内施設案内	外来陪診 薬剤クルズス (抗精神病薬)	アルコール・ミーティング ARP 基礎講習 ①	病棟 SST	病棟陪診	
第2週	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	休
	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
	集団精神療法	地域連携 薬剤クルズス (抗精神病薬)	アルコール・ミーティング 外来陪診	心理カウンセリング 疾病クルズス (統合失調症 1)	合併症 症状精神病 1	

	月	火	水	木	金	土
第3週	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	精神科デイケア	外来陪診
	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
	作業療法	病棟陪診 薬剤クルズス (感情調整剤) 院内断酒会	アルコール・ミーティング ARP 基礎講習 ②	病棟陪診 疾病クルズス (統合失調症 2)	精神科デイケア	
第4週	老人デイケア (通所リハビリ)	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	休
	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
	老人デイケア (通所リハビリ)	病棟陪診 薬剤クルズス (抗うつ薬)	アルコール・ミーティング 疾病クルズス (うつ病)	病棟陪診 疾病クルズス (認知症)	施設実習 (老人保健施設)	

	月	火	水	木	金	土
第5週	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診 地域連携	外来陪診
	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
	臨床検査 (心理・検体・理学)	地域連携 (しのめ寮) 疾病クルズス (双極性障害)	アルコール・ミーティング 薬剤クルズス (抗不安薬)	病棟陪診	病棟陪診 アルコール フィールドワーク	
第6週	作業療法	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	休
	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
	集団精神療法	病棟陪診 疾病クルズス (不安障害、身体表現性障害)	アルコール・ミーティング 薬剤クルズス (睡眠導入剤)	アルコール 家族教室 病棟陪診	合併症 症状精神病 2	

	月	火	水	木	金	土
第7週	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	作業療法	外来陪診
	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
	作業療法 薬剤クルズス (抗てんかん薬)	病棟陪診 疾病クルズス (てんかん)	アルコール・ミーティング ARP 基礎講習 ③	病棟陪診 疾病クルズス (発達障害①)	病棟陪診 疾病クルズス (発達障害②)	
第8週	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	
	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
	地域連携 (訪問看護ステーション)	病棟陪診 薬剤クルズス (副作用)	アルコール・ミーティング	地域連携 (桑友、グループホーム)	病棟陪診 研修総括	

④ 島根県立こころの医療センター

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	外来診察 (予診／診察陪席) 一般外来、思 春期外来など	外来診察 (予診／診察陪席) 一般外来、思 春期外来など	外来診察 (予診／診察陪席) 一般外来、思 春期外来など	外来診察 (予診／診察陪席) 一般外来、思 春期外来など	外来診察 (予診／診察陪席) 一般外来、思 春期外来など	
午後	事例検討 (13 時～)		診療会議 (13 時～)	思 春 期 症 例トリアー ジ & カンフ アレンス(12 時 30 分～)		島根県精 神科医懇 話会(隔 月)
	病棟診察 カンファレン ス、支援会議 など	病棟診察 カンファレン ス、支援会議 など	病棟診察 カンファレン ス、支援会議 など	病棟診察 カンファレン ス、支援会議 など	病棟診察 カンファレン ス、支援会議 など	
	適宜SST、CVPPP、作業療法、ディケアプログラム、 各種の院内研修会などに参加					
17 時以 降			思春期事 例検討会 (月 1 回)			

⑤ 海星病院

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	患者申し送り カンファレンス			患者申し送り カンファレンス	
9:00-12:00	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務
12:00-12:30	チームカンファレンス				
13:00-17:15	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務
17:45-18:30		抄読会			

⑥ 石東病院

	月	火	水	木	金
午前	病棟研修 デイケア研修	外来研修	外来研修	病棟研修 デイケア研修	病棟研修
午後	病棟診察	病棟診察	病棟診察 レクリエーション研修	病棟診察	病棟診察 勉強会 症例検討会

⑦ 西川病院

	月	火	水	木	金
午前	外来初診	診療スタッフ会 外来初診	診療スタッフ会 外来初診	診療スタッフ会 SST 心理教育	診療スタッフ会 外来初診
午後	病棟診療 急性期病棟カ ンファレンス	医局会 合同カンファレンス 病棟診療 (訪問診療)	精神科デイクア 個別スーパービ ジョン	病棟診療 ミニレクチャー	アルコールミーティン グ 病棟診療

*医局会には、英文抄読会、ケース検討会、エキスパートトクターレクチャーを含む

⑧ 松ヶ丘病院

	午前	午後
月曜日	外来(再診)	病棟(精神療法等)
火曜日	外来(初診)	病棟(精神療法等)
水曜日	病棟(精神療法等)	
木曜日	外来(再診)	病棟(精神療法等)
金曜日	外来(再診)	病棟(精神療法等)

<その他の行事>

症例検討会	(毎週火曜日)
デイケアDr.ミーティング	(第2金曜日)
Dr. コメディカル勉強会	(第3月曜日)
入退院推進会議	(第4火曜日)
施設への訪問診療	(第4金曜日)
精神相談	(保健所外出)

⑨ 奥出雲コスモ病院

	月	火	水	木	金
午前	・ 外来診察 （予診、診察 陪席） ・ 病棟業務	・ 外来診察 （予診、診察 陪席） ・ 病棟業務	・ 外来診察 （予診、診察 陪席） ・ 病棟業務	・ 外来診察 （予診、診察 陪席） ・ 病棟業務	・ 外来診察 （予診、診察 陪席） ・ 病棟業務
午後	・ 病棟業務	・ 特老ホーム 診察陪席 ・ 病棟業務	・ 病棟多職種 カンファレン ス参加 ・ アルコール ミーティング 参加(第2、4 週) ・ 病棟業務	・ デイケア参 加 ・ 病棟業務	・ 外来多職種 カンファレン ス参加 ・ 病棟業務

⑩ 安来第一病院

	月	火	水	木	金
8:30-10:00	外来予診	アルコール ミーティング	外来予診	外来予診	アルコール ミーティング
10:00-12:30	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務
13:00-13:30	医局会 薬事委員会		カンファレ ンス		
13:30-15:30	病棟業務 リエゾン	作業療法	病棟業務 リエゾン	デイケア	病棟業務 リエゾン
15:30-17:30	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務

⑪ 松江市立病院

	午前	午後	夕方
月	入院患者の診察に同席	病棟業務	症例カンファレンス
火	外来患者の診察に同席 新患予診	他病棟患者（リエゾン）の診察に同席 病棟、デイケア	
水	新患予診 病棟多職種カンファレンス	第2週：家族会参加 病棟、デイケア	第4週：病院診療局会議
木	新患予診 院内断酒会参加、病棟	第1週：病棟患者職員懇談会参加 S S T参加、病棟、デイケア	
金	新患予診 アルコール・ミーティング参加	病棟業務 第3週：行動制限最小化委員会参加	勉強会

- ・新患ある場合は、新患の予診とりを行い(午前)、指導医の診察に入る(午後)
- ・デイケアには適宜参加

⑫ 松江赤十字病院

< 松江赤十字病院精神科研修の週間～週間・月間計画 >

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	外来診療	早朝 Meeting 病棟診察	外来診療	外来診療	外来診療	
午後	リエゾン	病棟診察	外来診療	緩和ケア リエゾン	病棟診察	島根県精神 科医懇話会 (隔月)
17 時以降	月曜家族教室 (第 1)	Dr. Conference 行動制限検討委員会 (第 1) 精神科安全推進委員会 (第 1) DrNs.Conference (第 2) 医局会・集談会 (第 3) キャンサー・ボード (第 4)	精神科会議 (隔月) 薬物療法検討会 (第 2)	病棟断酒会 (第 2・4)		

⑬ 島根県立中央病院

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	病棟診察	外来診察 (予診／診 察陪席)	外来診察 (予診／診 察陪席)	病棟診察	外来診察 (予診／診 察陪席)	
午後	リエゾン 指導医とケ ースカンフ ァレンス	リエゾン 病棟診察	リエゾン 病棟診察	リエゾン	リエゾン 病棟診察 精神科内カ ンファレン ス	島根県精 神科医懇 話会(隔 月)
17 時以降				院内勉強 会		

⑭ こころの診療所細田クリニック

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来診察 (予診)	外来診察 (予診)	外来診察 (予診)	外来診察 (予診)	自己学習
	指導医診察 陪席	指導医診察 陪席	指導医診察 陪席	指導医診察 陪席	もしくは 外来診察 (継続ケース)
午後	心理検査 陪席	事業所メン タルヘルス 陪席	特別老人ホ ーム診察陪 席	外来集団療 法参加	症例検討
		もしくは 地域カンフ ァレンス参 加	もしくは 自立支援・介 護保険等の 審査等への 陪席		
	外来診察 (継続症例)	外来診察 (継続症例)	もしくは 措置診察 陪席		外来診察 (継続ケース)
		自己学習		自己学習	
17 時 以降		抄読会		外部講師講 演会参加	

⑮ とみさわクリニック

	月	火	水	木	金	土
9:00 ～ 20:00	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務

⑩ あさひクリニック

	月	火	水	木	金	土
9:00-12:00	外来診察	デイケア	デイケア	外来診察	デイケア	外来診察
13:30-17:00	外来診察	デイケア	デイケア		外来診察	

随時、関係者会議、支援会議に参加

⑰ エスポアール出雲クリニック

	月	火	水	木	金	土
午前	外来	外来	外来	外来	外来	デイケア
午後	外来	外来	デイケア	デイケア 自己学習	外来	デイケア
			施設訪問時同伴			
5 時以降			ふあっと (毎月 1 回)	出前交流塾 (毎月 1 回)		
〃			パワernetワーク会議・ 事例検討 (2 か月 に 1 回)			

B) 年間スケジュール

① 島根大学病院

4 月	オリエンテーション SR1-2 研修開始 専攻医グラウンドラウンド（毎月開催） 若手早朝勉強会、医局セミナーなどの各種の研究会に参加
5 月	島根県精神科医懇話会参加
6 月	日本精神神経学会総会参加 日本老年精神医学会参加(任意)
7 月	山陰精神神経学会参加（SR2 時には発表） 日本睡眠学会参加(任意) 島根県精神科医懇話会参加
8 月	日本精神科診断学会参加(任意)
9 月	中国地区精神科教室合同研修会参加（SR2 時には発表） 島根県精神科医懇話会参加 日本生物学的精神医学会参加(任意) 日本神経精神医学会参加(任意)
10 月	日本児童青年医学会参加(任意)
11 月	日本臨床精神神経薬理学会（SR2 時）参加 中国・四国精神神経学会参加（SR2 時には発表） 島根県精神科医懇話会参加
12 月	研修プログラム管理委員会開催
1 月	島根県精神科医懇話会参加
2 月	医局セミナーにて症例研究発表
3 月	島根県精神科医懇話会参加 SR1 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成

② 松江青葉病院

4 月	オリエンテーション
5 月	島根県精神科医懇話会参加
6 月	日本精神神経学会総会参加 日本老年精神医学会参加(任意)
7 月	山陰精神神経学会参加 島根県精神科医懇話会参加
8 月	
9 月	島根県精神科医懇話会参加 日本神経精神医学会参加(任意)
10 月	日本児童青年医学会参加(任意)
11 月	中国・四国精神神経学会参加 島根県精神科医懇話会参加 日本認知症学会参加(任意) 日本精神科医学会参加 (任意)
12 月	
1 月	島根県精神科医懇話会参加
2 月	
3 月	島根県精神科医懇話会参加 研修プログラム評価報告書の作成

③ こなんホスピタル

月	内容
4 月	
5 月	島根県精神科医懇話会参加
6 月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加
7 月	島根県精神科医懇話会参加
8 月	
9 月	島根県精神科医懇話会参加
10 月	
11 月	島根県精神科医懇話会参加 地方精神神経学会参加・演題募集
12 月	
1 月	島根県精神科医懇話会参加
2 月	
3 月	島根県精神科医懇話会参加

④ 島根県立こころの医療センター

4 月	オリエンテーション
5 月	島根県精神科医懇話会
6 月	日本精神神経学会学術総会 日本産業精神保健学会 日本老年性精神医学会
7 月	山陰精神神経学会 島根県精神科医懇話会
8 月	全国自治体病院協議会精神科特別部会総会・研修会 夏期休暇
9 月	島根県精神科医懇話会
10 月	日本児童青年精神医学会 中国・四国精神神経学会 日本アルコール関連問題学会 日本箱庭療法学会
11 月	日本総合病院精神医学会 島根県精神科医懇話会
12 月	日本精神科救急学会
1 月	島根県精神科医懇話会
2 月	全国児童青年精神科医療施設協議会研修会
3 月	島根県精神科医懇話会

⑤ 海星病院

4 月	オリエンテーション
5 月	島根県精神科医懇話会 参加
6 月	日本精神神経学会総会 参加 日本老年精神医学会 参加（任意）
7 月	山陰精神神経学会 参加 日本睡眠学会参加 参加（任意） 島根県精神科医懇話会 参加
8 月	日本精神科診断学会 参加（任意）
9 月	中国地区精神科教室合同研修会 参加 島根県精神科医懇話会 参加 日本生物学的精神医学会 参加（任意） 日本神経精神医学会 参加（任意）
10 月	日本児童青年医学会 参加（任意）
11 月	日本臨床精神神経薬理学会 参加（任意） 中国・四国精神神経学会 参加 島根県精神科医懇話会 参加
12 月	
1 月	島根県精神科医懇話会 参加
2 月	
3 月	島根県精神科医懇話会 参加

⑥ 石東病院

4 月	オリエンテーション
5 月	島根県精神科医懇話会参加
6 月	日本精神神経学会総会参加（任意）
7 月	山陰精神神経学会参加 島根県精神科医懇話会参加
8 月	
9 月	島根県精神科医懇話会参加
10 月	
11 月	日本臨床精神神経薬理学会参加（任意） 中国・四国精神神経学会参加（任意） 島根県精神科医懇話会参加
12 月	
1 月	島根県精神科医懇話会参加
2 月	
3 月	島根県精神科医懇話会参加 研修プログラム評価・総括

⑦ 西川病院

4 月	新人オリエンテーション
5 月	島根県精神科医懇話会
6 月	日本精神神経学会学術総会
7 月	島根県精神科医懇話会 山陰精神神経学会
8 月	
9 月	島根県精神科医懇話会
10 月	
11 月	島根県精神科医懇話会
12 月	
1 月	島根県精神科医懇話会
2 月	院内研究発表会
3 月	

⑧ 松ヶ丘病院

	行事名
4月	
5月	島根県精神科医懇話会 参加
6月	日本精神神経学会学術総会 参加
7月	
8月	
9月	島根県精神科医懇話会 参加
10月	
11月	
12月	
1月	島根県精神科医懇話会 参加
2月	
3月	

⑨ 奥出雲コスモ病院

4 月	オリエンテーション
5 月	島根県精神科医懇話会
6 月	日本精神神経学会学術総会
7 月	山陰精神神経学会 島根県精神科医懇話会
8 月	
9 月	島根県精神科医懇話会
10 月	
11 月	中国・四国精神神経学会 島根県精神科医懇話会
12 月	
1 月	島根県精神科医懇話会
2 月	
3 月	精神科精神科医懇話会 研修プログラム評価報告書の作成

⑩ 安来第一病院

4月	オリエンテーション
5月	島根県精神科医懇話会参加(任意)
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	山陰精神神経学会参加・演題発表(任意) 島根県精神科医懇話会参加(任意)
8月	
9月	島根県精神科医懇話会参加(任意)
10月	
11月	中国・四国精神神経学会参加(任意) 島根県精神科医懇話会参加(任意)
12月	
1月	島根県精神科医懇話会参加(任意)
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成 島根県精神科医懇話会参加(任意)

⑪ 松江市立病院

4 月	オリエンテーション BLS 講習会参加
5 月	島根県精神科医懇話会参加
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	山陰精神神経学会学術総会参加 島根県精神科医懇話会参加 緩和ケア研修会参加
8 月	地域病診連携研修会・懇話会参加
9 月	島根県精神科医懇話会参加
10 月	日本精神科救急学会学術総会参加（任意）
11 月	総合病院精神医学会学術総会参加 島根県精神科医懇話会参加
12 月	
1 月	院内雑誌論文投稿 島根県精神科医懇話会参加
2 月	
3 月	島根県精神科医懇話会参加 研修の総括

⑫ 松江赤十字病院

＜ 松江赤十字病院精神科研修の年間計画 ＞

＜ 島根県圏域の研究会・地域精神医療への参加 ＞

- | | |
|-----------------------|-----------|
| * 島根県精神科医懇話会への参加・研究発表 | (隔月開催) |
| * 松江安来圏域精神科懇話会 | (年 4 回開催) |
| * 松江保健所心の相談業務 | (年数回) |

＜ 学会・研究会への参加 ＞

- | | |
|-----------------------------|------------|
| * 日本精神神経学会への参加・研究発表 | (6 月開催) |
| * 日本緩和医療学会への参加・研究発表 | (6 月開催) |
| * 全日本赤十字病院精神科連絡協議会への参加・研究発表 | (6 月開催) |
| * 山陰精神神経学会への参加・研究発表 | (7 月開催) |
| * 中四国アルコール医療研究会への参加・研究発表 | (9 月開催) |
| * 総合病院精神医学会 | (1 1 月開催) |
| * 山陰臨床懇話会 | (1 2 月開催) |

⑬ 島根県立中央病院

4 月	オリエンテーション
5 月	島根県精神科医懇話会
6 月	日本精神神経学会学術総会
7 月	山陰精神神経学会・島根県精神科医懇話会
8 月	夏期休暇
9 月	島根県精神科医懇話会
10 月	中国四国精神神経学会
11 月	島根県精神科医懇話会
12 月	
1 月	島根県精神科医懇話会
2 月	
3 月	島根県精神科医懇話会

⑭ こころの診療所細田クリニック

4 月	
5 月	島根県精神科医懇話会
6 月	日本精神神経学会学術総会 日本精神神経科診療所協会学術総会
7 月	山陰精神神経学会 島根県精神科医懇話会
8 月	日本精神神経学会サマースクール
9 月	島根県精神科医懇話会
10 月	島根県キャリアアップネットワーク研修会
11 月	日本総合病院精神医学会 島根県精神科医懇話会
12 月	島根県キャリアアップネットワーク研修会
1 月	島根県精神科医懇話会
2 月	島根県キャリアアップネットワーク研修会 松江安来圏域精神科医療連絡協議会
3 月	日本社会精神医学会 日本集団精神療法学会 島根県指定医会議 島根県精神科医懇話会参加

⑮ とみさわクリニック

4 月	
5 月	島根県精神科医懇話会参加
6 月	日本精神神経学会参加
7 月	島根県精神科医懇話会参加
8 月	日本芸術療法学会研修セミナー講演
9 月	島根県精神科医懇話会参加
10 月	
11 月	日本芸術療法学会参加
12 月	
1 月	島根県精神科医懇話会参加
2 月	
3 月	島根県精神科医懇話会参加

⑩ あさひクリニック

4 月	
5 月	島根県精神科医懇話会参加
6 月	日本精神神経学会参加
7 月	山陰精神神経学会参加 島根県精神科医懇話会参加
8 月	
9 月	島根県精神科医懇話会参加
10 月	
11 月	中国・四国精神神経学会参加 島根県精神科医懇話会参加
12 月	
1 月	島根県精神科医懇話会参加
2 月	
3 月	島根県精神科医懇話会参加

⑪ エスポアール出雲クリニック

4 月	パワーネットワーク会議、交流塾、ふあっと
5 月	事例検討会、交流塾、ふあっと、島根県精神科医懇話会
6 月	パワーネットワーク会議、交流塾、ふあっと
7 月	事例検討会、交流塾、ふあっと、島根県精神科医懇話会
8 月	パワーネットワーク会議、交流塾、ふあっと
9 月	事例検討会、交流塾、ふあっと、島根県精神科医懇話会
10 月	パワーネットワーク会議、交流塾、ふあっと
11 月	事例検討会、交流塾、ふあっと、島根県精神科医懇話会
12 月	パワーネットワーク会議、交流塾、ふあっと
1 月	事例検討会、島根県精神科医懇話会
2 月	パワーネットワーク会議、交流塾、ふあっと
3 月	事例検討会、交流塾、ふあっと、島根県精神科医懇話会